

【海外レポート】

シドニー大学 室内環境質研究所に滞在して

西原直枝

聖心女子大学 現代教養学部 教育学科

はじめに

2019年10月から2020年3月までの期間、大学の在外研究制度を利用して、オーストラリア・シドニー大学室内環境質研究所（Indoor Environmental Quality Laboratory）に約半年間滞在しました。研究受け入れをして下さった R. de Dear 先生とは以前に共同研究をさせていただいたことがあり¹⁾、今回の滞在が実現しました。

シドニー大学 室内環境質研究所について

シドニー大学は、オーストラリア最古の大学です。室内環境質研究所²⁾には、教員、スタッフ、学生に加え、イギリス、イラン、中国、日本、ベルギーなどから、温熱環境、建築、都市の省エネルギーや快適性に携わる研究者が、サバティカル制度やポスドク制度等を利用して滞在し、研さんを積んでいました。その他、R. de Dear 先生のもとに様々な国から研究者が訪れており、その都度、ピザなどを囲みながら、ランチタイムセミナーが開かれ、最新の研究情報の交換が行われていました。とても活気があり、多くの刺激を受けました。

私自身は、半年間という短い滞在でしたが、幸い共同研究が実現し、シドニー大学における研究倫理審査委員会を経て、温熱環境適応に関する被験者実験に取り組むことができました。得られた実験データをもとに、成果を論文にまとめ、発表していく予定です。研究所内には、人工気候室やサーマルマネキンがあり、衣服、空調などの人間が温熱環境に適応する行動を含めて、実験条件などを組み、研究計画を立てることができました。

滞在中のシドニーでの生活について

シドニー滞在中は、大規模な森林火災の被害や市街地まで及ぶ空気汚染、突然の豪雨や洪水がありました。日本でも、オーストラリアでの森林火災や、コアラなどの野生動物の危機が報道されていたようですので、ご存じの方も多いかもしま

せん。さらにその後、これはオーストラリアに限りませんが、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大が起きました。災害、感染症の影響が続いた研修期間だったともいえます。3月末になんとか予定を終え、無事に帰国しましたが、災害が多い中、経済、環境、社会がどのように動いていくのかを肌で感じる事となり、身近な日常生活を健康、安全に保つために自分の専門分野からできることは何か、考えていくこととなりました。



写真：シドニー大学にて

参考文献

1) R. J. de Dear et al. (2013) Indoor Air 23(6) 442 - 461

2) <https://www.sydney.edu.au/architecture/our-research/architectural-science-research/indoor-environmental-quality.html>

<連絡先>

〒150-8938

東京都渋谷区広尾4-3-1

聖心女子大学現代教養学部教育学科 西原直枝

TEL：03-3407-5976

MAIL：nishihara@u-sacred-heart.ac.jp